

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	・2年以上にわたる「コロナ禍」により、令和3年度においても学校行事や生徒の学校生活に大きな影響が出た。しかしながら、時間の経過とともに「With コロナ」の観点から、最大限のコロナ対策を行ったうえで、教育活動の計画を立て、実行していく体制づくりや校内での意識改善が進み、主要な学校活動は実施することができた。 ・歴史と伝統のある2つの専門高校の開校式を経て、名実ともに「伊万里実業」として新たなスタートを切った年度となった。農業科・商業科という2つの専門学科を有する県内唯一の学校として、校訓である「至誠礼節」のもと、地域社会や上級学校からの「信用と信頼」を得られる学校となるよう、改めて、教育活動の活性化と情報発信に努める必要がある。
2 学校教育目標	心身ともに健康で逞しく、「至誠」と「礼節」を重んじ、専門的知識・技術を生かし社会に貢献し愛される人材を育成する。
3 本年度の重点目標	(1)心身ともに健康な生徒と安全安心な学校づくりを目指す。 (2)学習意欲を高め、確かな学力修得と進路実現を図る。 (3)「Society5.0」や「6次産業化」などの次世代を見据え、地域に貢献できる人材の育成を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1)共通評価項目			中間評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	○年間計画に基づき基礎学力の向上を目指す。	○国語・英語テスト及び就職ドリルの各クラスの平均点が「15～18点(20点満点)以上」を目指す。 ○進路マップのGTZにおいて、各レベルの生徒が「上のレベル」になるように取り組む。	・事前にトレーニングの時間を設け、各教科でも授業時間に取り扱うなど実施前の学習にも力を入れる。 ・小テストの年間成績優秀者は年度末に学校長から表彰をおこなう。 ・昨年度の成績を踏まえ、事前テキストを各教科の授業で取り扱い、理解の進んでいない生徒の実態把握と学力定着をめざす。 ・学期毎に生徒の学力状況把握と今後の指導改善にむけた話し合いの場を設定し、教科指導の工夫を行う。	A	・小テストについては、関係科目の授業中や家庭学習の中で、事前に学習できるように配慮した。 ・小テストの全体平均(商業CP)は、国語17.7、英語17.1、数学16.7であり、目標には達しているものの、クラスによっては差があり、さらに基礎学力の向上に力を入れる必要がある。 ・進路マップのGTZについては、3年生において、2年次より「B」が1.4%増、「C」が2.7%増、「D」が4.1%減となり、全体的に基礎学力が向上していると考えられる。 ・就職ドリルの全体平均(農林CP)は13.5、1年生15.0、2年13.1、3年12.3であり、2・3年生の取り組み状況の改善を図る必要がある。
	○読書活動の推進	○生徒図書委員会を年間「3回」実施する。 ○ひと月平均100冊以上の貸出を目指す。	・朝の読書の実施。 ・図書委員会の毎学期1回の実施。 ・本のリクエストボックスの設置と運用の実施	A	・朝読書は、毎日取り組んでいる。 ・1学期に図書委員会は開催した。 ・DIYリクエスト・ボックスを作り図書館カウンターに設置している。生徒からのリクエストもあり活用している。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●講話等を受けて、「ためになった」と答える生徒の割合「80%以上」を目指す。 ●礼節・マナーの定着を目指した指導を行う。	・交通安全、防犯、薬物乱用防止等の講話を実施する。形式は、講演方式もしくはオンライン方式で実施する。生徒の高い危機管理能力の向上を目指す。 ・礼法指導マニュアルを作成し、教員間で指導方法の共通理解を図り、年間を通して授業やHRを通して指導する。	A	・交通安全教育は、伊万里警察署より来校され、県内で発生した事故の瞬間を映像で視聴することで危機管理の重要性を再認識することができた。 ・防犯講話は、外部講師を招いて実施した。今年4月から成年年齢が18歳に伴い、悪質商法・消費者トラブル等について学ぶことができた。 ・薬物乱用防止は、11月に外部講師を招いて実施予定である。 ・「いじめ」防止対策のための職員研修会を7月に実施した。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ問題に対して、未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に取り組み、組織的な対応ができていないと回答する教員が「90%以上」になるようにする。 ●いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図るため、アンケートを月に「1回」実施する。	・気になる生徒に対して早めの働きかけを行い、カウンセラーへつなげていく。 ・スクールカウンセラーと連携して生徒の状況把握を確実にし、職員間での情報共有を確実にするため、学期に1回程度気になる生徒についての情報交換会を開く。	A	・多様な背景による不登校傾向にある生徒や、保健室頻繁利用の生徒については、保護者との連携、スクールカウンセラーを入れた校内の連携、さらに学校外関係機関とも円滑に連携することができている。進路変更を余儀なくする生徒も出たが対応としては組織的にできている。 ・いじめアンケートを月に1回実施し、早めに生徒からの信号を捉えることができた。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎アンケート調査で「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒が「70%以上」になることを目指す。 ◎地域ボランティア活動を実施する。 ◎県内(地元を含む)就職率の向上と地域を支える人材の育成を目指す。	・1年生は、朝の読書の時間を使って一定期間「佐賀語」を読ませ、まずは「佐賀」を理解させる。 ・授業等で、地域課題を分析し高校生のレベルで解決策を検討させたり、販売実習等をおこなうことで地域活性化に貢献する。 ・全学年10月27日(木)のLHRの中で、地域の清掃活動をおこなう。 ・生徒に対する職場説明会の促進や保護者に対する進路説明会等で地元企業の紹介を具体的におこなう。	A	・1年生については、朝の読書の時間を使って、「佐賀誇り」を読む時間を設定した。 ・3年生の課題研究「ビジネスプラン」や「商業デザイン」の中で、地域の課題を見つけ、解決するためのプランを立てたり、「伊万里」をテーマにした動画作成に取り組むことで地元を知り、地元へ貢献する活動を積極的におこなっている。 ・職場説明会等で、地元企業の紹介を詳しくおこない、地元意識を高め、地元で活動することの魅力を伝えることができた。 ・農林CPでは地域から外部講師を招き、専門分野に関する実習および講義を行っている。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切な要素である」と考える生徒の割合「90%以上」を目指す。	・食育便り毎学期発行とアンケートの実施。 ・お弁当の日の月一回の実施。	A	・ほぼ毎月、お弁当の日の実施と食育便りの発行ができた。 ・保健だよりを毎月発行して、望ましい生活習慣や食生活を確立することが基礎体力をつけることや感染予防にもつながることが理解実践できるよう指導できた。飲食前の手洗いの励行など習慣化できている。
	●「安全に関する資質・能力の育成」(学校独自重点取組・任意)	●学校管理下でのケガ等による生徒一人あたりの災害給付申請件数を「5%以下」にする。	・保健便りによる啓発活動	A	・安全教育として熱中症予防の保健指導を保健委員が開催したこともあり、熱中症による災害はなかった。効果があったと考える。 ・保健便りは月に一度、最新の保健情報を提供している。 ・災害給付申請者数については、農林キャンパスでは令和3年度9月までに20件、令和4年度は同月11件、商業キャンパスでは令和3年度9月までに12件、令和4年度は7件と減少した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(週1回)。 ・学校閉庁日の設定(4日間)。 ・部活動休養日の設定日の徹底と運用の遵守。	A	・時間外勤務時間については、昨年比で100時間超、2-6月平均80時間超、平均共に減少傾向にある。
	○校舎制の学校における用務、業務の効率化を図る	○校内組織や用務の一元化を目指し、用務や会議、委員会の統合を進める。両キャンパスで統合できる用務や委員会、オンラインで対応できる会議等を10以上創出する。	・学期に一度の合同運営委員会(3) ・体育祭、文化祭、クラスマッチ、芸術鑑賞、修学旅行、学校説明会(中学生向け)において、「統一した資料」の作成、「両キャンパスでの担当」の割り振りを推進していく。 ・少なくとも学期に一度の合同分掌会議、担任会の実施を推進する。 ・メールやオンライン会議による省力化と時間削減。	B	・学校行事については、各分掌での協力体制ができてきた。資料の作成等ではまだ工夫する余地が残る。 ・合同での運営委員会や職員会議については、日程の設定が難しく、難航している。分掌間については情報共有や意思の疎通が進んでいる。 ・オンライン会議の進捗は遅れているが、学校行事におけるオンライン集会を行うことで、移動時間を短縮できた。管理職の情報共有はメールで行っている。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
○ICT利活用	○ICT機器を活用した家庭学習の支援	○オンライン授業の実施により、校内で受講する場合と同じ効果が得られる環境づくりに取り組む。 ○ICT機器の使用を習慣的に定着させ、家庭学習に支障なく対応できる操作スキルを身に付けさせる。	・臨時休校や学級閉鎖に伴うオンライン授業を確実に実施し、欠席者の理解度が低下しないよう対応する。また、授業で取り扱う課題などの配布もデジタルで配信するなど、登校生徒との差が生じないように配慮する。 ・1年生は学習タブレットの活用に向けた指導を徹底し、2・3年生を含め、学校および家庭での利用向上を目指す。 ・日々の「健康観察」などにあたり、アンケート機能などを有効に活用する。	A	・幸い休校や学級閉鎖はないため、課題のデジタル配信の必要はないが、自宅待機者対象のオンライン授業は実施できている。 ・学習タブレットの活用については、オンライン授業配信の準備も含め、様々な機器を生徒自身が扱えるように今後も指導を継続していく。 ・健康観察や各種アンケートもタブレット等の活用ができています。
★魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進	【農林キャンパス】 ★地域と連携した持続可能な農業・環境教育とプロジェクト学習の推進	★専門教科を生かした持続可能な農業や環境保全に興味関心が持てる生徒70%以上を目指す。 ★学校生産物販売会やAコープ販売会を通じて、学校の理解者と来校者10%増を目指す。	・SSLを活用した学校活性化を図る。 ・地域と連携した活動(新商品開発ほか)や交流活動等の推進を図る。	B	・SSLについては各学科思ったより進捗状況が遅れている。今後は1年目の目標のところまで、高めたい。 ・地域と連携した活動は、各学科実施してもらっている。今後とも地域に根ざした活動をしていきたい。Aコープ実習は定期的に実施することができている。このまま継続していく。 ・今年度フードプロジェクト部が県内企業と協力して、魚の骨を使ったクッキーの商品開発を行うことができた。商品をイベントで販売し、PR活動と交流活動に取り組んでいる。
	【商業キャンパス】 ★実践的・体験的な活動を通じ、実社会で活躍できるスキルや知識を身に付けさせる。地域の発展に貢献できる人材の育成を目指す。	★各種検定試験の合格率「80%以上」を目指すとともに生徒の学習意欲の向上を図る。 ★外部講師による講習・講演を活用し、より実践的な知識と技術を身に付けさせる。	・検定試験対策としては、長期休業の特課や直前対策特課を行い全生徒へ行き届いた指導を行う。 ・経営者や専門家の外部講師講演を行い、生徒の専門教育に対する興味関心を高めるとともに、スペシャリスト育成や起業家精神を育む教育を行っている。	A	・長期休業中の特課も職員の協力のもと実施することが出来た。コロナ禍のため受講できない生徒もいたが、オンライン授業等に対応した。 ・経営者や専門家の外部講師講演も、オンライン環境を活かして行っている。生徒も積極的に取り組み、よく考察している。
	【キャンパス共通】 ★農業教育、商業教育について校舎間での教職員で相互に学び合い、両キャンパスで行っている実習や商品開発・販売実習では協働で行う場面を増やすと共に、地域への広報活動にも努める。	★それぞれの学科の特性を活かした教育活動において、校舎間で協働で取り組むことができる活動をさらに5項目以上創出する。 ★地元紙、新聞、テレビ等への広報活動において、毎月1件以上取り上げてもらうよう努める。	・外部から案内されている種々の講習会や研修会等を積極的に活用する。職員、生徒に案内し、参加、出席を促す。 ・広報活動に必要なコンテンツの作成、刷新を行い、デジタル化に対応できる体制をつくる。 ・地域へのタイムリーな情報発信	A	・コロナ禍の中、感染対策を考慮しながら、徐々に講演会や研修会を実施している。オンライン、対面の双方を、状況を見ながら効果的に実施してもらっている。 ・広報活動については、HPへの掲載を中心にコンテンツの充実が図られてタイムリーな情報発信に努めている。
○校舎制	○両キャンパス合同で実施する各種委員会の促進 ○学校行事や生徒会行事等の合同実施	○両キャンパス合同で行う会議を増やし、全職員レベルの情報共有と意思疎通を図る。 ○キャンパス合同で実施してきた学校行事や生徒会行事の精選と効率化を図る。	・両CP運営・職員会議における共通の議案は、オンライン会議等で対応し、両CP職員間での共通認識と意思の疎通を図る。 ・生徒会行事におけるオンライン配信は現状のインフラ設備ではトラブルが多く運営上困難である。今年度は事前に準備した動画をYouTube配信することで、映像・音声配信のトラブルを無くしていく。 ・生徒が主体となって生徒会行事の運営を進めていく流れは継続し、すべての生徒が積極的に参加できる学校行事を醸成していく。	A	・両キャンパス合同会議については、日頃より各文書等で連絡を取り合いながら定期的に実施している。全体については、必要性を考慮して年度初めの1回のみである。 ・コロナ禍での体育館行事はYouTube配信を活用し、その他の行事も良好な状況であった。これからのキャンパス制の新しい行事あり方が模索できた。